捕獲個体の効率的な処理とジビエ利活用（佐賀県吉野ヶ里町・神埼市）

○ 鳥獣処理施設を整備し、駆除したイノシシの処分方法を施設搬入のみに統一することで、駆除活動を効率化
○ 廃棄されるだけであったイノシシ肉をジビエ利用することで、地域資源の有効活用や特産品としてブランド化

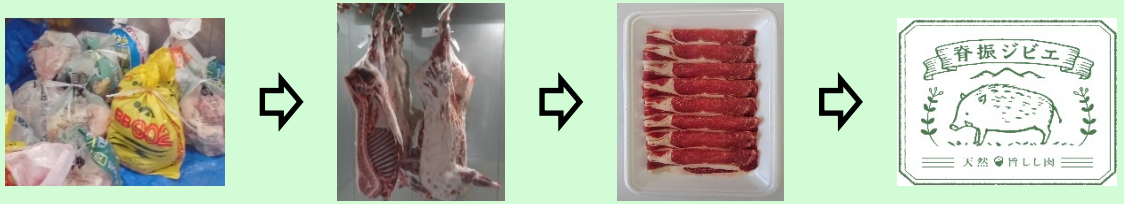
取組内容

① 吉野ヶ里町と神埼市の猟友会（駆除隊）が行う駆除活動で捕獲されたイノシシ及びアライグマについては埋設処分を行っていたが、平成30年からすべて処理施設での処分を可能にすることにより、駆除活動を効率化

Before
捕獲 ⇒ 埋設
1～2時間以上

After
捕獲 ⇒ 搬入
30分以内

② 処理施設に集められたイノシシをジビエ利用することで、今まで廃棄されていた資源を有効活用。加えて、ジビエをブランド化し地域の特産品に



成果

○ 駆除従事者には埋設のための穴掘りが大きな負担となっていたが、処理施設への搬入のみが捕獲後の処理作業となり、労働量が軽減

○ 処理の時間短縮により、見回りや誘引捕獲のための餌の設置などに注力できるようになり、駆除活動効率が向上

○ ジビエ利用を行うことで、新たな雇用、新たな特産品を創出

捕獲個体の効率的な処理とジビエ利活用（佐賀県吉野ヶ里町・神埼市）

きっかけ・背景

- ○ 駆除従事者の減少や高齢化に伴い、１人当たりの労働量が増加
- ○ 駆除活動負担軽減のための対策が必要との要望

課題

- ○ 処理施設を駆除従事者が整備・運営することは困難
- ○ また、町で処理施設を整備・運営することも困難

Step1 整備・運営者の協議（H28）

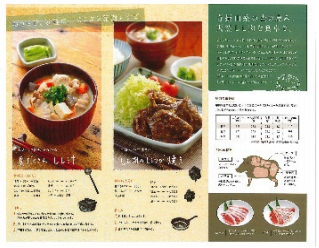
- ○ 施設整備を町で行うが、運営については法人を設立し、猟友会（駆除従事者）で行えるかを協議

Step2 事業計画・範囲の協議（H28）

- ○ 処理するためだけの施設ではなく、ジビエ利用の用途も付加することを協議
- ○ 吉野ヶ里町だけでなく、隣接し駆除活動を共同で行っている神埼市と、広域的な駆除及びジビエ利用計画を協議

イノシシ処理施設

ジビエパンフレット



イノシシ肉スライス

Step3 関係者詳細協議（H28～）

- ○ 吉野ヶ里町、神埼市及び猟友会が協議を重ね、施設運営に関する詳細まで協議
  （作業内容・販路開拓・PR活動・運営費等）
- ○ イノシシ処理施設運営開始(H30)

取組の特色

- ○ 吉野ヶ里町及び神埼市で捕獲したイノシシをすべて搬入
- ○ 処理施設の利用料や処分費を市町が負担し、駆除者の負担を軽減
- ○ 元来、吉野ヶ里町ではイノシシ肉を食べる文化が浸透していなかったため、ジビエ（イノシシ肉）というだけではインパクトが弱かったことから、ロゴをデザインし、パンフレット・のぼり旗・缶バッチ等を作成してPRを実施

取組による成果・効果

- ○ 駆除従事者は、捕獲後の労働力や経費が減少し、捕獲活動の効率化、活動意欲の低減を抑制
- ○ 吉野ヶ里町及び神埼市で捕獲したイノシシをすべて搬入することで、ジビエ利用個体数が増加
- ○ PRの効果もあり、イノシシ肉を取り扱う店舗が増加し、認知度が向上